

朝陽太鼓踊り



1592年（文禄元年）、豊臣秀吉の朝鮮に出征した島津義弘公が軍の士気を高め鼓舞するために打ち鳴らされた鉦と太鼓に、後で踊りを振り付けたのが始まりとされている。

7月28日は藩政時代には御法楽（ごふらく）と称して町内の社寺に太鼓踊りを奉納する1年中で一番賑やかな祭礼日だった。この踊りは、本来武神たる諏訪大明神に奉納するもので、神仏混淆時代の慣習として同時に寺院でも踊り、武運と豊作とを祈ったのである。この頃太鼓踊りは7月踊りと呼ばれていた。（現在は毎年8月の最終日曜日に奉納している。）

元村の諏訪神社の大祭日に町内の主要寺院にも奉納されていた太鼓踊りは、明治維新後廃寺によって諏訪神社と仮屋馬場だけで踊り、その後商店街などを踊って廻るように変貌して現在に至っている。

【奉納・披露】

日程：毎年8月の最終日曜日

場所：朝陽コミュニティセンター・大宮神社（入来町）・諏訪神社（入来町）
現生寺（入来町）